

線維筋痛症を患者にとっても
医師にとっても難病にしないための書

岡田正人 ● 聖路加国際病院アレルギー・膠原病科 (SLE, 関節リウマチ, 小児リウマチ) 部長

線維筋痛症は、広汎な疼痛が単独、もしくは合併症とともに存在する病状であり、我が国における罹患率は1.7%程度と推定されている。線維筋痛症には、精神的負荷が疼痛の間接的な原因となる場合も含まれるため、直接的に合併症により疼痛が生じる場合は除外される。この多発筋痛症により広範な疼痛を伴った原疾患の治療により症状の軽減が期待される。

しかしながら、長期罹患における関節破壊による非炎症性疼痛からの睡眠障害、身体的・精神的に引き起こされる疼痛は、線維筋痛症と関連する。このように、線維筋痛症は特別な疾患ではなく、臨床医の適切な理解と治療を受ける機会を提供する必要がある。



- 学術
- ・夏のインフルエンザ流行の原因と特徴
 - ・胆石症の診断と治療—生活習慣病と関連して
 - ・臨床カンファレンス②—急性の胸部苦悶と不眠
 - ・【グラフ】梅毒と鑑別すべき皮膚疾患

- プライマリケア・マスターコース
- ・メンタルヘルス不調者の職場復帰—復職時の対応をめぐって 対人関係で悩む場合

質疑応答

- ・C型肝炎患者の両肺間質性変化
- ・長期治療依存型ネフローゼ症候群の治療
- ・血液ガス分析のPaO₂値と検体輸送時間の関連
- ・加齢に伴う癌発の病態と治療
- ・嫉妬・憎悪の感情・他人の不幸を喜ぶ理由
- ・Clostridium difficileの検査と診断
- ・インフルエンザ薬の投与
- ・国の破産の定義およびその可能性

B5判・232
ISBN 978-4
日本医事新報



週刊日本医事新報に 線維筋痛症診療 ガイドライン2013の 書評が掲載されました

週刊日本医事新報No.4652号に
聖路加国際病院
アレルギー・膠原病科の
岡田正人先生が執筆された
本学会編集の
線維筋痛症診療ガイドライン
2013の書評が掲載されました。

